

新帝国主義の侵略的野望を打破するために、 自主を志向する諸国は朝鮮のまわりに結集しなければならない

カザフスタン、アルマティ金正日同志チュチェ思想研究普及会
アンドレイ・グリシン
ニコライ・ザポパドコ

十年が経って新たな十年が始まりました。特に国家間、そして国家内部における残忍で長期的な戦争は、失くした基盤を取り戻そうとする復活過程、あるいは去る世紀の帝国主義の崩壊の余波に今も見えるさまざまな形態の新帝国主義とあれこれと結びついています。

1950年6月、朝鮮人民に強いられた戦争は長期間の植民地のくびきから解放されて間もない一国にとって一つの新しく過酷な試験でした。

民族の太陽である金日成主席は歴史的な演説「すべての力を戦争勝利のために」の中で軍事力を強化し、強力な軍隊を建設して社会主義の獲得物を守らなければならない必要性について述べました。

勝利を獲得した後、主席は「軍隊が戦闘で勝利するためには、兵器がすぐれていなければならないのはもちろんですが、戦闘意識、思想・意識が高く、技術水準が高くなければなりません。とくに思想・意識は決定的な意義をもちます。必勝の信念に欠け、闘志を失くした軍隊にとって、兵器と技術はまったく無力なものです」と述べています。

このように有能な軍隊を建設すべきであるという賢明な定義は、英明な金日成主席が創始したチュチェ思想を体現した金正日総書記が90年代中葉に人民軍を革命の主力部隊に押し立てた新たな先軍政治で実践に適用しました。

勇敢な最高司令官である金正日総書記は「朝鮮革命は銃剣によって始まり、銃剣をもって祖国の解放を成し遂げ、アメリカ帝国主義侵略者を打ち負かし、祖国の尊厳と自主権を守り抜きました」と述べています。言い換えれば、社会主義強国のすべての獲得物と苦労を重ねて手に入れた人民の幸福は銃剣と密接に結びついています。

金正日総書記は思想・意識の強い軍隊を建設しなければならないとした民族の慈父である主席の思想を実践に具現しました。

金正日総書記は有名な著作「先軍革命路線はわれわれの時代の偉大な革命路線であり、朝鮮革命の百選百勝の旗印である」の中で次のように述べています。

「人民軍を無敵必勝の革命武力に強化して祖国の安全と革命の獲得物を守り、人民軍を中核とし、主力として革命の主体を強固なものにし、社会主義建設全般を革命的

に、戦闘的に繰り広げるところに先軍政治の本質的特徴があります。

金日成主席が示し、一貫して堅持してきた銃重視、軍事重視の思想と路線は、わが党の先軍政治の基礎であり原点です」

このように金正日総書記はチュチェ思想を効果的に豊富化させ、これによって朝鮮民主主義人民共和国は先軍革命精神で発展し始めました。朝鮮民主主義人民共和国は外国の思想的・文化的影響が国に浸透されることを防ぐために先軍時代の要求に即して思想的、政治的警戒心を高め、指導者の努力を一致して支持しました。こういう点で朝鮮民主主義人民共和国の全人民にとって朝鮮人民軍は革命意識と特有の朝鮮文化のモデルとなりました。

上記のように思想の側面で、精神で革命が起こり、一方、経済と宇宙および国防工業で突破口が開かれたことにより、朝鮮民主主義人民共和国は世界的にもっとも大きな経済大国と同等に宇宙および核強国の序列に入るようになりました。同著で共産主義未来の太陽金正日総書記は次のように述べています。

「全党、全軍、全人民は先軍の旗を高く掲げて果敢な闘争を繰り広げ、社会主義強盛大国を建設し、祖国の統一を実現し、チュチェの革命偉業を達成しなければなりません」

金日成主席と金正日総書記の偉大な継承者である天才的な金正恩総書記は 2013 年 4 月 25 日、慶祝行事で先軍理論について具体的に述べています。

「先軍は金正日同志の革命思想であり革命実践であり、金正日同志の政治理念であり政治方式でした。

…

人民軍の強化を先軍革命の第一の重大事と見なした金正日同志は、人民軍を党の偉業に限りなく忠実な領袖の軍隊、必勝不敗の革命強兵に育て上げて朝鮮革命の柱、主力部隊として押し立て、祖国の安全と社会主義を守るための厳しい反帝反米対決で歴史的勝利を取めました。…

金正日同志は先軍指導の成果を固め、先軍政治を全面的に実現するため、朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議第 10 期第 1 回会議で先軍革命の思想と原則を具現した社会主義憲法を採択させ、国防委員会を中軸とする新しい国家管理体系を確立し、すべての国家活動が軍事先行の原則に基づいて行われるよう賢明に導きました」

チュチェ革命の継承者である金正恩総書記は朝鮮民主主義人民共和国を世界的な軍事強国に発展させました。資本主義諸国の読者たちは、平壤にたいする自国政府の脅威が無益であることが分かったと思います。

アメリカとその追従国が 1950 年に朝鮮を攻撃したとき、武力の対比は彼らが発表した数字によっても 10 対 1 でした。しかし、彼らは英明な金日成主席の指導のもとに恥

ずかしくも平和を物乞いし始めた敵を撃滅させた人民の強靱さと思想性を考慮に入れませんでした。現在、一人の朝鮮人民軍は資本主義国の軍隊 100 名に対応できるように準備されています。核兵器の保持と自らの宇宙計画によって社会主義朝鮮は帝国主義の西側同盟とその追従国と肩を並べています。

金正恩総書記は「人民軍は常に高度の臨戦態勢を維持し、敵が軽挙妄動するなら一撃のもとに粉碎し、祖国統一の歴史的偉業を達成することができるよう戦闘準備をしっかりと整えなければならない」と述べています。

金正恩総書記の指導のもとにチュチェの革命偉業が立派に継承されなかったならば、外部の反動勢力は「社会主義と繁栄の島」を占拠しようと引き続き策動したでしょう。しかし、強い思想性と人民の支持のない強兵などありえません。ソ連の痛ましい教訓は人々の思想要素が弱化され、自国と自分の指導者にたいする人々の信頼が希薄になり始めると、あのように強大な軍隊も決して国の崩壊を防げないということを示しました。同時に、世界最強を誇る米軍も朝鮮で敗北を喫した時から自分より弱い軍隊によって数十回も敗北を喫しました。それは資本主義思想がより高い水準の軍事訓練に全く助けにならないからです。

にもかかわらず、世界の帝国主義は復讐の機会を狙っています。

ソ連を破壊した経験に基づいて世界の帝国主義は、軍事力と世界を支配する国際機構そして乱暴な宣伝、諸国内部の「第 5 部隊」と思想的に弱くなった人々を利用してアラブ世界の多くの独立諸国を連続的に転覆させ、これらの国はまた、絶え間ない戦争に巻き込まれるようになりました。南アメリカの合法的な政府を転覆させようとした試みもあったし、これらの政府にたいする経済的圧力は今も続いています。一方、イランは恒常的な攻撃を受けており、クーデターを促進する試みもあります。これはすべて西側諸国が自主政治を追求する真の独立諸国の存在を抑制しようとする動きを見せています。一方、アフリカ、アジア、そして南アメリカの諸国では、西側の支配、特にアメリカとイギリスの支配から脱しようとする動きが加速化されています。

戦争と経済干渉に没頭している西側は、確立された世界制度に挑戦する諸国が世界舞台に一つの新たな政治的、経済的背後勢力として出現することについて等閑視してきました。

したがって、世界の多極化と西側の影響力の同時的弱体化と西側の他の頭痛の種を見るとき、すべての独立国家や独立を望む諸国は、朝鮮民主主義人民共和国の経験、チュチェ思想と先軍政治を深く研究しなければなりません。西側陣営と中国間の緊張が今まで経済の側面で存在し、中国は西側に警戒心を高めている諸国に経済的援助を与えました。朝鮮民主主義人民共和国は超大国との思想対決で非常に実践的経験が多い世界的な思想強国として出現しており、これは結局、たいへん実際的な軍事的勝利へ

つながりました。一部の真の独立国家と新たな環境で独立を追及する諸国を除いて、多くの国々はまだ決心を下していません。こういう面で朝鮮民主主義人民共和国は新たな発展進路を示す一つの灯台、世界的な不安定の中でももっとも大きな成果を収めた国になることができました。

われわれ中央アジア地域内の諸国を見ると、これらの国は自己の地理的位置とソ連の崩壊とともに失くした思想の欠如によって無為無策でいます。現在、これらの国はロシアの帝國的野望と軍事的介入、サウジアラビアとトルコ主導下のイスラム世界、そして集团的西側によって各面で影響を受けています。中国がそれらの国に経済的に大きな影響を与えていると同時に内部の政治的矛盾とこれらの共和国の絶対多数の人口がなめている酷い貧窮は、中央アジアの国境内で強い独立国家の形成を阻んでいます。

反対に西側は、地域の歴史的敵を弱化させるためにこの地域を一つの不安定地帯にしようとしています。そういう面でこれらの国々にとってもっともよいモデルは、偉大なチュチェ思想をもっており、社会主義と自力更生の上に建設され、自己の軍事力をもった朝鮮民主主義人民共和国となります。

現在、資本主義諸国のもっとも愚かな大統領たちが社会主義朝鮮を攻撃するだけでなく、それに影響力を行使しようとするように見えますが、朝鮮民主主義人民共和国は世界の一部である地域をチュチェの社会主義建設の正しい方向へと転換できるすべての能力をもっています。